

第3回

金文について 2



頌壺
(西周晚期)

古代の邑落（ゆうらく）

城郭都市…城壁で周囲を囲み堅固に防御した都市を指す。

① (国)

② (城)

或

或

或

土塁、堀なども防御施設として用いられる。
 エジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、
 中国文明や、古代ギリシアの各地に誕生している。
 城郭都市の起源は環濠集落と考えられ、新石器時代に
 農耕が誕生するとともに世界各地で普遍的に見られた。

或



古代エジプトのThebesの復元図
 紀元前19世紀



ドイツ ゲッティンゲン
 (模型)

西安の城壁と水堀



戦国時代、趙の都として栄えた邯鄲。
 「邯鄲の夢(枕)」の故事で知られる。



江戸城の外郭

京都の御土居(おどい)

豊臣秀吉によって作られた京都を囲む土塁。外側の堀とあわせて御土居堀と呼ぶ場合もある。聚楽第、寺町、天正の地割とともに秀吉による京都改造事業の一つである。一部が京都市内に現存し、史跡に指定されている。



大宮土居町の御土居。中央の凹地が堀。土塁は左側



鷹峯旧土居町(御土居史跡公園)の御土居





ブータンの版築による建築

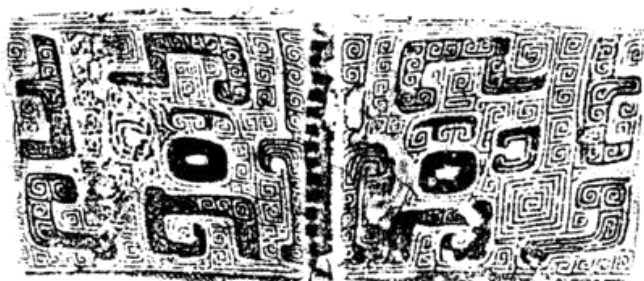


法隆寺の版築塀

版：片は城壁などを築くときの、版築に用いるあて木の形。片を両辺に立て、中に土を盛り、これをつかためて土墨とする。その方法を版築という。

説文 

甲骨 



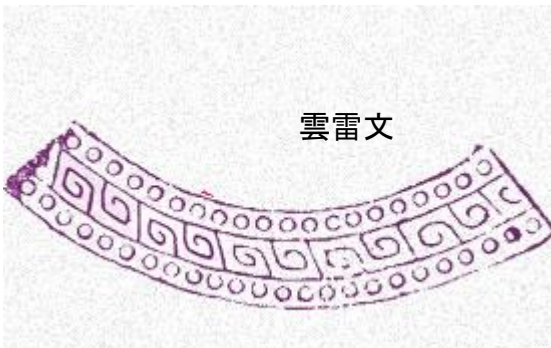
饗養文



饗養文



饗養文



雲雷文



【夔鳳文】

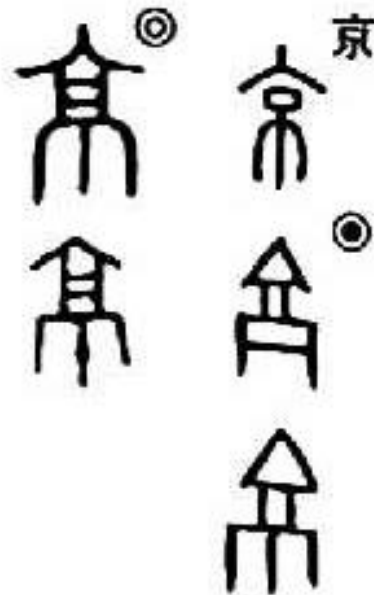
上一西周前期。

下一西周中期。

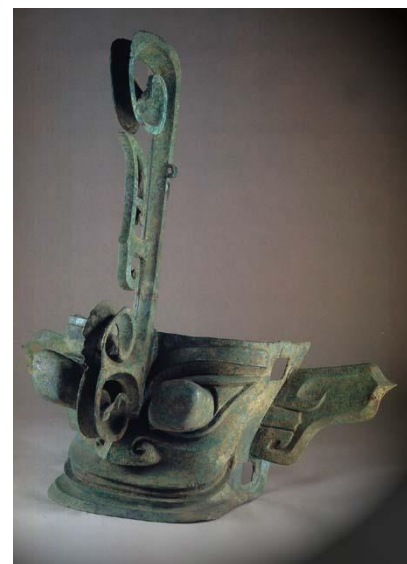
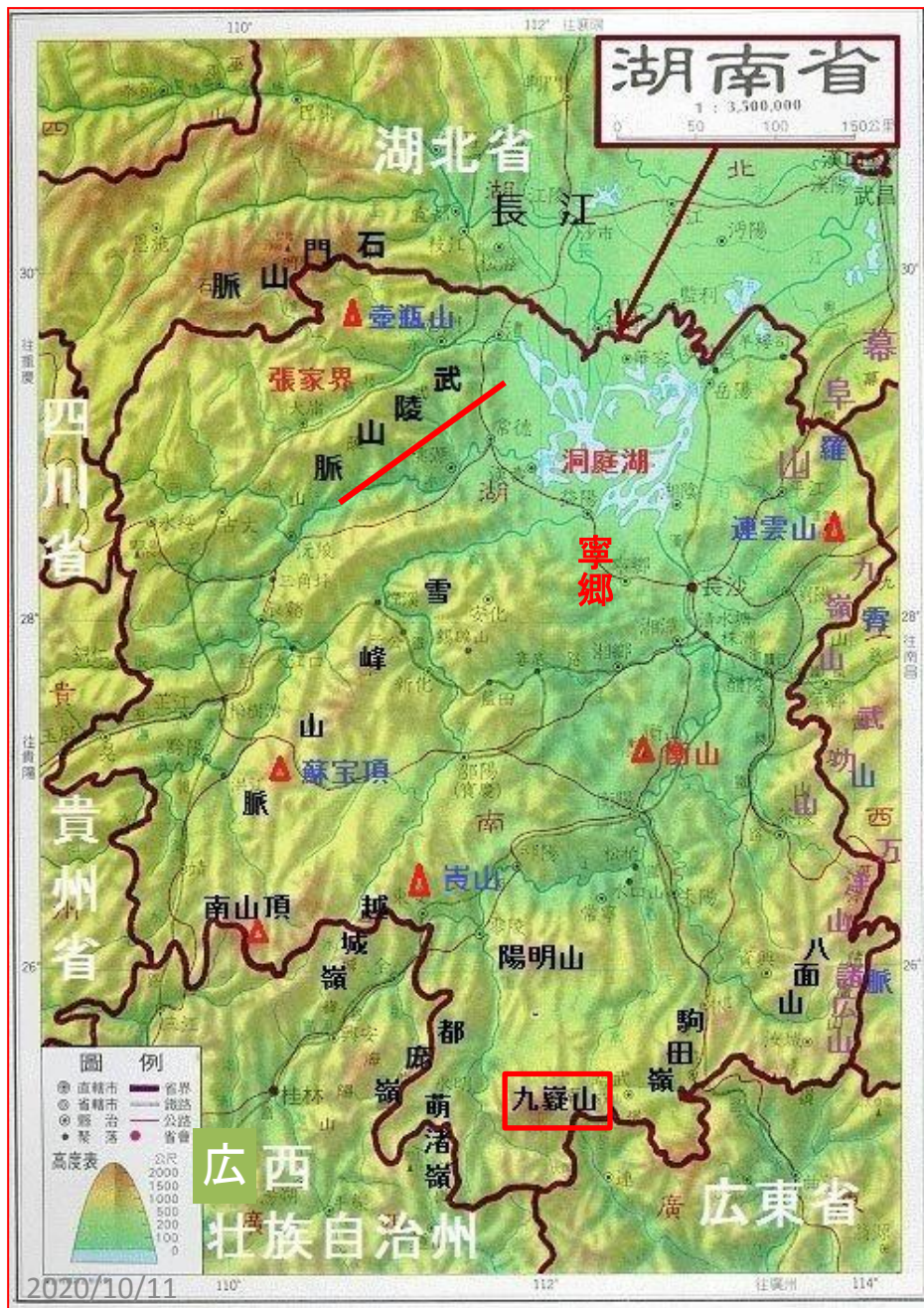


夔龍文 (きりゅうもん)

青銅器の紋様



アーチ状の門の形。上に望楼を設ける。これを軍営や都城の入り口に建てた。「説文」五下に「人の爲(つく)る所の絶(はなは)だ高き丘なり。高の省に従ふ。一(二ん)は高き形に象る」とするが、字は高丘の形でなく、上部も屋根の形である。

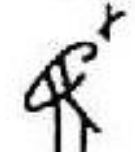


三星堆遺跡出土青銅仮面



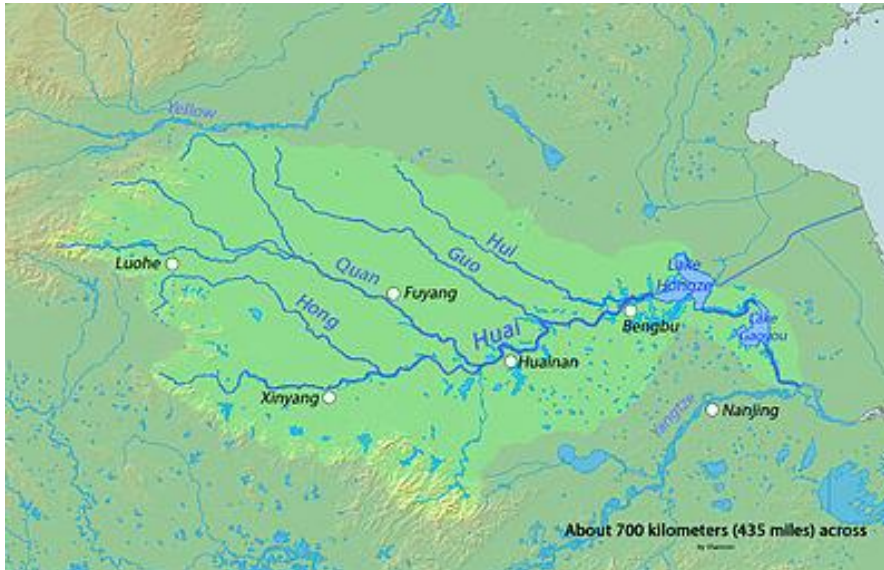
湖南省寧鄉出土青銅器 鏡

為(爲)



淮河(わいが 別称:淮水)

長江・黄河に次ぐ第三の大河。古くは「河」が黄河の固有名詞であったので、淮水と呼んだ。長さは一〇七八km、流域面積は一七四〇〇〇km²に及ぶ。



殷代青銅器銘文の様相

蒼鬱(おううつ)・草木が盛んに茂るさま)で、神霊の気を感じさせる重厚な文字。

周代青銅器の様相

周王一覧(西周)

- 文王(? - 紀元前1051年)
①武王(前1046年? - 前1043年)
②成王(前1042年 - 前1021年)
③康王(前1020年 - 前996年)
④昭王(前995年 - 前977年)
⑤穆王(前976年 - 前922年)
⑥共王(前922年 - 前900年)
⑦懿王(前899年 - 前892年)
⑧孝王(前891年 - 前886年)
⑨夷王(前885年 - 前878年)
⑩厲王(前877年 - 前841年)
⑪共和(前841年 - 前828年)
⑫宣王(前827年 - 前782年)
⑬幽王(前781年 - 前771年)
携王(前770年 - 前750年)

※一般的な学説に基づく

第一期(文・武・成・康)

健爽(雄健でさわやか)かつ伸びやかで明るく、細かいことに拘泥しない。
紀年銘が入ったものが少ない。(年代の特定が困難)

第二期(昭・穆・共(恭)・懿・孝)

礼楽制度や政治体制の安定を背景に、体裁の美しさを求めるようになる。
「緊湊体」

第三期(夷・厲・共和・宣・幽)

堂々とした構えのもの、端正で美しいものなど多様性がみられる。
毛公鼎など長文のものがある。

断代について（年代を特定すること）

○ 古代の暦は春秋時代まで復元（春秋長暦）
それ以前については諸説ある。

白川説では殷周革命を紀元前一〇七五年と比定する
（一般的には一〇四六年）

○ 月相による一月の分割

初吉（一日〜八日）・既生霸（九日〜十五日）・既望（十六日〜二十三日）
既死霸（二十四日〜三十日） ※望（十五日）

干支番号

干支（えと）・十干十二支（じっかんじゅうにし）

1	2	3	4	5	6	十二支 1 周目
甲子 こうし	乙丑 いっちゅう	丙寅 へいいん	丁卯 ていぼう	戊辰 ぼしん	己巳 ぎし	
7	8	9	10	11	12	十二支 2 周目
庚午 こうご	辛未 しんび	壬申 じんしん	癸酉 きゆう	甲戌 こうじゅつ	乙亥 いつがい	
13	14	15	16	17	18	十二支 3 周目
丙子 へいし	丁丑 ていちゅう	戊寅 ぼいん	己卯 ぎぼう	庚辰 こうしん	辛巳 しんし	
19	20	21	22	23	24	十二支 4 周目
壬午 じんご	癸未 きび	甲申 こうしん	乙酉 いつゆう	丙戌 へいじゅつ	丁亥 ていがい	
25	26	27	28	29	30	十二支 5 周目
戊子 ぼし	己丑 きちゅう	庚寅 こういん	辛卯 しんぼう	壬辰 じんしん	癸巳 ぎし	
31	32	33	34	35	36	十二支 1 周目
甲午 こうご	乙未 いつび	丙申 へいしん	丁酉 ていゆう	戊戌 ぼじゅつ	己亥 きがい	
37	38	39	40	41	42	十二支 2 周目
庚子 こうし	辛丑 しんちゅう	壬寅 じんいん	癸卯 きぼう	甲辰 こうしん	乙巳 いっし	
43	44	45	46	47	48	十二支 3 周目
丙午 へいご	丁未 ていび	戊申 ぼしん	己酉 きゆう	庚戌 こうじゅつ	辛亥 しんがい	
49	50	51	52	53	54	十二支 4 周目
壬子 じんし	癸丑 きちゅう	甲寅 こういん	乙卯 いつぼう	丙辰 へいしん	丁巳 ていし	
55	56	57	58	59	60	十二支 5 周目
戊午 ぼご	己未 きび	庚申 こうしん	辛酉 しんゆう	壬戌 じんじゅつ	癸亥 きがい	

昭王の在位年に対する元旦の干支番号（殷周革命をBC一〇七五年として）

元旦の干支番号

B.C. ↓

昭元	1026	⑬
2	1025	⑦
3	1024	⑩
4	1023	⑮
5	1022	⑳
6	1021	㉕
7	1020	㊳
8	1019	㊿
9	1018	①
10	1017	⑥
11	1016	⑪
12	1015	⑱
13	1014	㉔
14	1013	㊲
15	1012	㊷
16	1011	㊺
17	1010	㊽
18	1009	㊿
19	1008	①
20	1007	⑥
21	1006	⑪
22	1005	⑱
23	1004	㉔



【資料1】達盪(「文物」一九九〇年七期)

佳三年五月既生霸王寅、王才周、執鑄于滿应、王乎嵩趨召達、王易達鑄、達拜頤首、對揚王休、用乍旅盪

佳れ三年五月既生霸王寅、王、周に在り、駒を滿の应に執ふ。王、嵩趨をして達を召さしむ。王、達に駒を賜ふ。達、拜して稽首し、王の休に對揚して、用て旅盪を作る。



盪の例



鳥の形。「説文」四上に「鳥の短尾なるものの総名なり」という。ト文では、神話的な鳥の表示には鳥をかき、一般には佳を用いる。語法としては「佳(二)れ」という発語に用い、文献では唯・惟・維を用いる。



D 十佳(すい)。「説文」二上に「諾するなり」とあり、唯諾は応答の語である。また口に従う字とするが、口は祝告の器である(ちい)で、祈り。

段段



〔資料2〕段段（『金文通釈』巻二下・七四、二〇〇四年、平凡社刊）

唯王十又四祀、十又一月丁卯、王齋畢、荳、戊辰、曾、王穰段曆、念畢中孫子、令龔颯、遄大刪于段、敢對颯王休、用乍段、

孫々子々、萬年用享祀、孫子□□

唯れ王の十又四祀、十又一月丁卯、王、畢に在り。蒸す。戊辰、曾す。王、段の曆を蔑し、畢仲の孫子を念ひて、龔颯を令ひ、

大則を段に遄らしめたまふ。敢て王の休に對揚して、用て段を作る。孫々子々、萬年まで用て享祀せよ。孫子□□。



2020/10/11

顧鳳文



優侯盃
えんこうう
西周中期(穆王期)

穆王期の紀年銘を持つ青銅器

- 前一〇〇三⑥〇 元年卻咎設 元年三月丙寅③(第五日)
- 前一〇〇二②④ 二祀饌解 二祀三月初吉乙卯⑤②(第一日) - 1
- 前一〇〇一①⑨ 三祀師遽設 三祀四月既生霸辛酉⑤⑧(第十一日)
- 前九七四④② 三十年虎設蓋 三十年四月初吉甲戌①①(第一日)
- 前九七〇④⑧ 三十四年鮮設 三十四祀五月既望(生霸)戊午⑤⑤(第十日) - 5**

穆元	1003	⑥〇	19	985	④⑥
	2	1002	20	984	④⑩
	3	1001	21	983	④
	4	1000	22	982	⑤⑧
	5	999	23	981	⑤②
	6	998	24	980	①⑥
	7	997	25	979	⑩
	8	996	26	978	③⑤
	9	995	27	977	②⑨
	10	994	28	976	②④
	11	993	29	975	④⑧
	12	992	30	974	④②
	13	991	31	973	③⑥
	14	990	32	972	⑤⑨
	15	989	33	971	⑤④
	16	988	34	970	④⑧
	17	987	35	969	①②
	18	986	36	968	⑦

三十年虎設蓋についての記述



蓋の蓋面に刻まれた銘文は、右に三行、二十二字の銘文があり、左に三行、二十二字の銘文がある。その銘文は次の如くである。
 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面
 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面

この銘文は、左に三行、二十二字の銘文があり、右に三行、二十二字の銘文がある。その銘文は次の如くである。
 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面
 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面 九年正月既望 王曰 虎設蓋 蓋面

三十四年鮮設についての記述



この鮮設は、その銘文は、左に三行、二十二字の銘文があり、右に三行、二十二字の銘文がある。その銘文は次の如くである。
 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面
 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面

この鮮設は、その銘文は、左に三行、二十二字の銘文があり、右に三行、二十二字の銘文がある。その銘文は次の如くである。
 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面
 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面 三十四年既望 王曰 鮮設 蓋面

白川静著作集《金文通釈》



内藤湖南（ないとうこなん、1866年・1934年）



日本の東洋史学者。名は虎次郎。字は炳卿（へいけい）。湖南は号。別号に黒頭尊者。白鳥庫吉と共に戦前を代表する東洋学者であり、戦前の邪馬台国論争、中国における唐宋変革時代区分論争などで学界を二分した。

狩野直喜（かのなおき、1868年・1947年）



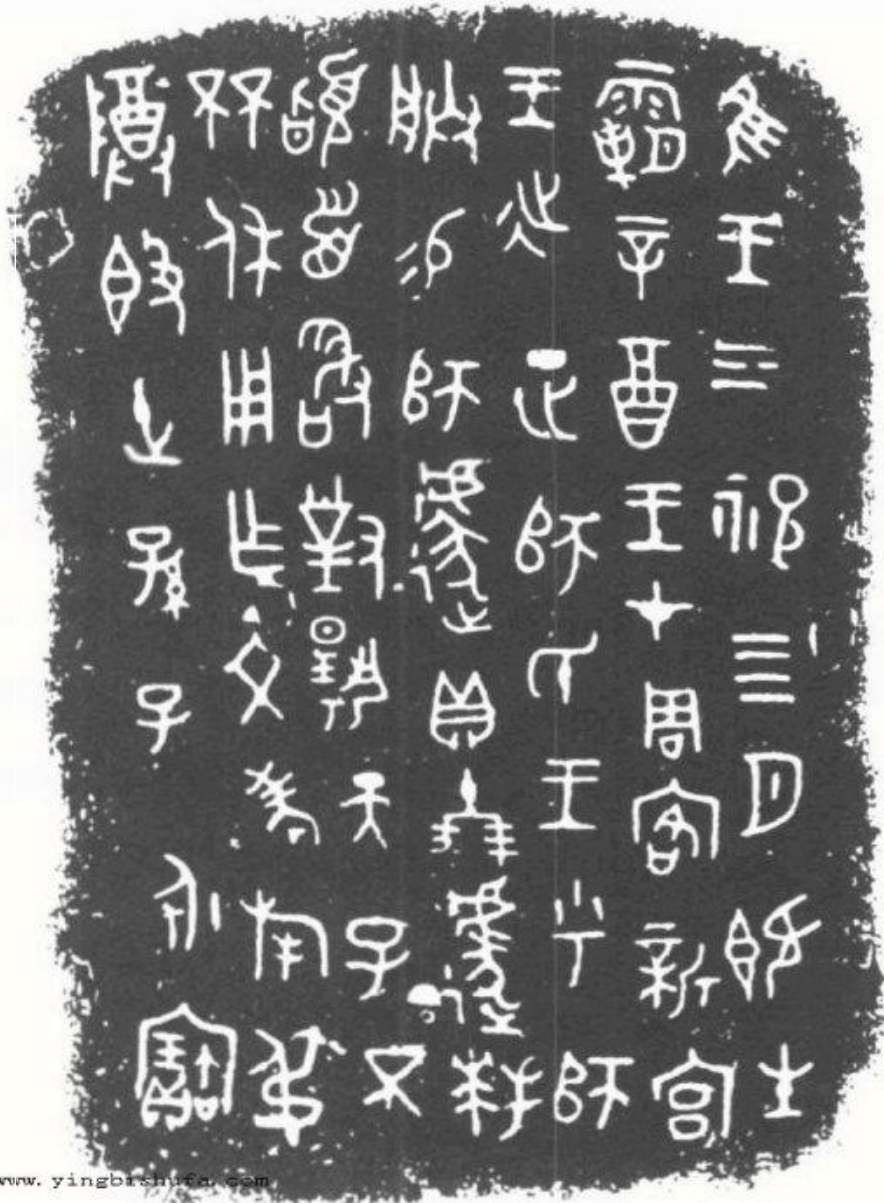
肥後国（現熊本県）生まれの中国学者（中国文学・中国哲学・敦煌学）。京都帝国大学名誉教授。字は子温、号に君山、半農人がある。内藤湖南・桑原隲蔵と並ぶ京都学派の創始者の一人。

橋本循（はしもとじゅん、1890年・1988年）



日本の中国文学者。現在の福井県越前市生まれ。雅号・蘆北。京都帝国大学文学部文学科修了。1928年立命館大学予科教授。1946年同法文学部文学科部長。1949年「漢魏六朝文学思想論」で京大文学博士。立命館理事。1959年特別任用教授。1969年名誉教授。白川静の師匠。記念して蘆北賞が設けられた。

師遽殷銘(蓋)



【資料3】師遽殷（「金文通釈」巻二・一〇〇、二〇〇四年、平凡社刊）

佳王三祀四月既生霸辛酉、王才周、客新宮、王征正師氏、王乎師朕、易師遽貝十朋、遽拜頤首、敢對覲天子不侷休、用乍文考旒叔隣殷、世孫子、永寶

佳れ王の三祀四月既生霸辛酉、王、周に在り、新宮に格いたる。王征いでて師氏を正す。王、師朕しきよを呼び、師遽しきよに貝十朋を賜はしむ。遽拜して稽首けいしゆし、敢て天子の不侷ひひなる休に對揚して、用て文考旒べう叔の隣殷を作る。世孫子、永く寶とせよ。

十朋



十朋



算木に用いる 貝を綴った形。
縦の木の形。 一連二系。



師遽殷

虎段銘(蓋)



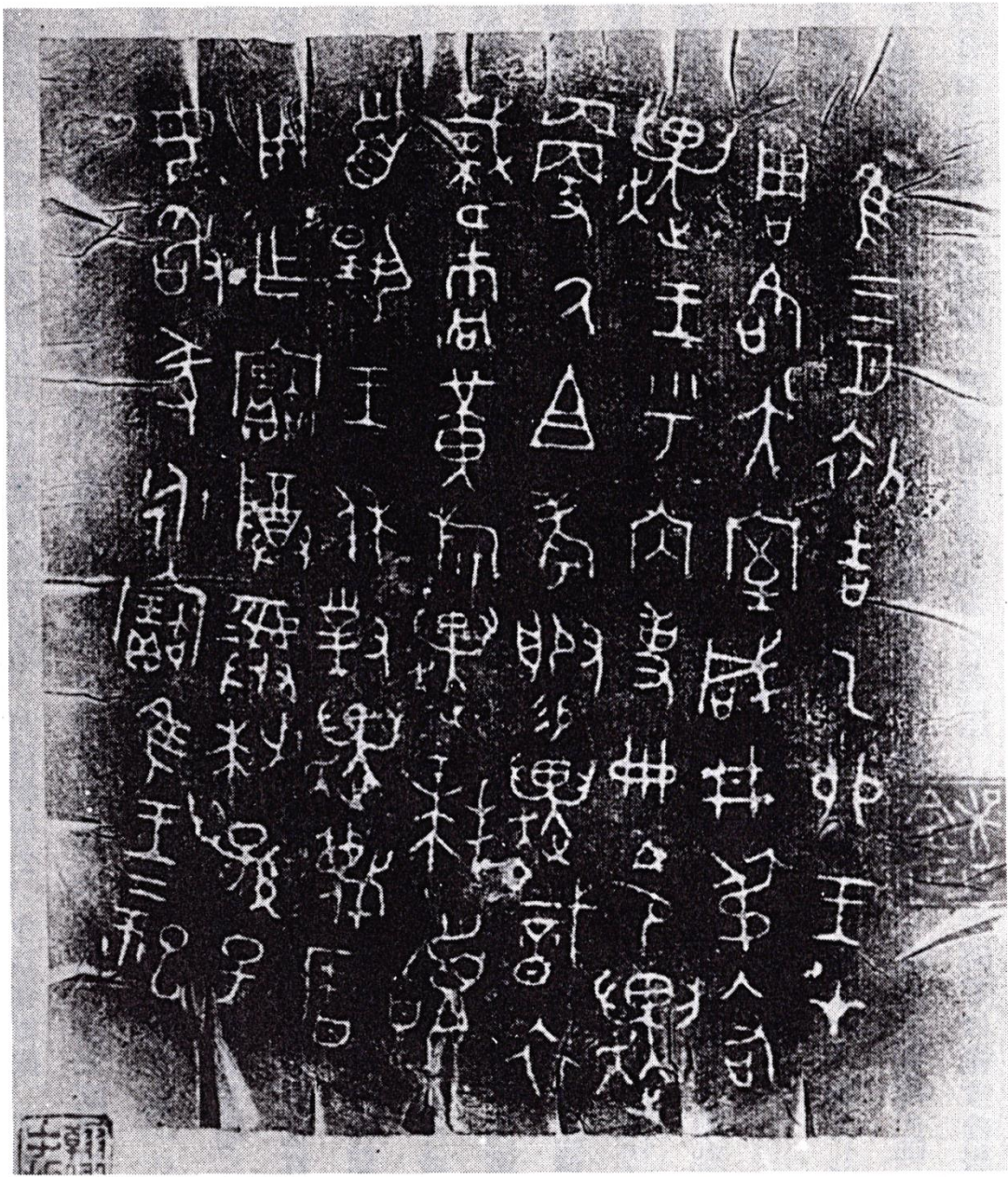
佳卅年四月初吉甲戌、王才周新宮、各于大室、癸叔內右虎、卽立、王乎入史曰、册令虎、曰、飜乃且考事先王、嗣虎臣、今令女曰、更乃且考、疋師戲、嗣走馬駮人眾五邑走馬駮人、女毋敢不善于乃政、易女口市幽黃・玄衣澆屯、繚旂五日、用事

虎敢拜頤首、對揚天子丕杯魯休、虎曰、不顯朕刺且考、善明克事先王、隸天子弗望厥孫子、付厥尙宮、天子其萬年、隸茲命、虎用乍文考日庚隳段、子孫其永寶用、夙夕享于宗

佳れ三十年四月初吉甲戌、王、周新宮に在り、大室に格る。密叔内りて虎を右け、位に卽く。王、内史を呼びて曰く、虎に册命せよと。曰く、乃の祖考に飜りて先王に事へ、虎臣を嗣めたり。今、女に命じて曰く、乃の祖考に廢ぎ、師戲を疋け、走馬の駮人と五邑走馬の駮人とを嗣めよ。女敢て乃の政に不善なること毋れ。女に口市幽黃・玄衣澆純・繚旂五日を賜ふ。用て事へよと。

虎敢て拜して稽首し、天子の丕杯なる魯休に對揚せん。虎曰く、不顯なる朕が烈祖考、善明にして克く先王に事へたり。隸に天子、厥の孫子を忘れたまはず、厥の常宮を付へたり。天子其れ萬年まで、茲の命を隸ねたまはんことを。虎用て文考日庚の隳段を作る。子孫其れ永く寶用し、夙夕に宗に享せよ。

趨觶(よくし)銘



趨

佳三月初吉乙卯、王才周、各大

室、咸井叔入右趨、王乎内史、册令趨、夏厥且老
服、易趨馘衣・載市・同黃・旂、趨拜頤首、甌干
休對、趨蔑曆、用乍寶障彝、柎孫子、毋敢象、永
寶、佳王二祀八行六八字〔對彝脂 子之寶幽祀之、ナ

幽合韻〕

佳三月初吉乙卯、王、周に在り。大室に格る。咸邢叔入りて趨
を右く。王、内史を呼び、趨に册命せしむ。厥の祖考の服を更
げと。趨に織衣・載市・同黃・旂を賜ふ。趨、拜して稽首し、
王の休に揚へて對ふ。趨、蔑曆せられ、用て寶障彝を作る。世
孫子、敢て墜すこと毋く、永く寶とせよ。佳王の二祀なり。



鮮段銘



佳王卅又四祀、唯五月既望戊午、王在莽京、雷于邵王、鮮蔑曆、鄭、王朝鄭、玉三品・貝廿朋、對王休、用乍、子孫其永寶

佳れ王の三十又四祀、唯れ五月既望戊午、王、莽京に在り、昭王に禘す。鮮、蔑曆せられ、裸す、王朝裸し、玉三品・貝二十朋（を賜ふ）、王の休に對へて、用て（この段を）作る。子孫其れ永く寶とせよ。

※ 鄭は古く僂に作り、のちの裸の字に當る。

裸は「字音」カン（クワン） 「字訓」きよめ。

声符は果（か）。清めの酒をそいで「らう」と。

きよめ。きよめの祭。祭の時、酒をくみかわすこと。



共王期の紀年銘を持つ青銅器

前九六六^㉔ 二祀吳方彝 二祀二月初吉丁亥^㉔（第一日）

前九六一^㉕ 七年趙曹鼎一 七年十月既生霸

前九五三^㉖ 十五年趙曹鼎二 十五年五月既生霸壬午^㉖（第十三日）

前九四^㉗ 晉鼎 元年六月既望乙亥 ×

共元	967	㉓
2	966	㉔
3	965	㉕
4	964	㉖
5	963	㉗
6	962	㉘
7	961	㉙
8	960	㉚
9	959	㉛
10	958	㉜
11	957	㉝
12	956	㉞
13	955	㉟
14	954	㊱
15	953	㊲
16	952	㊳
17	951	㊴

吳方彝銘（蓋）

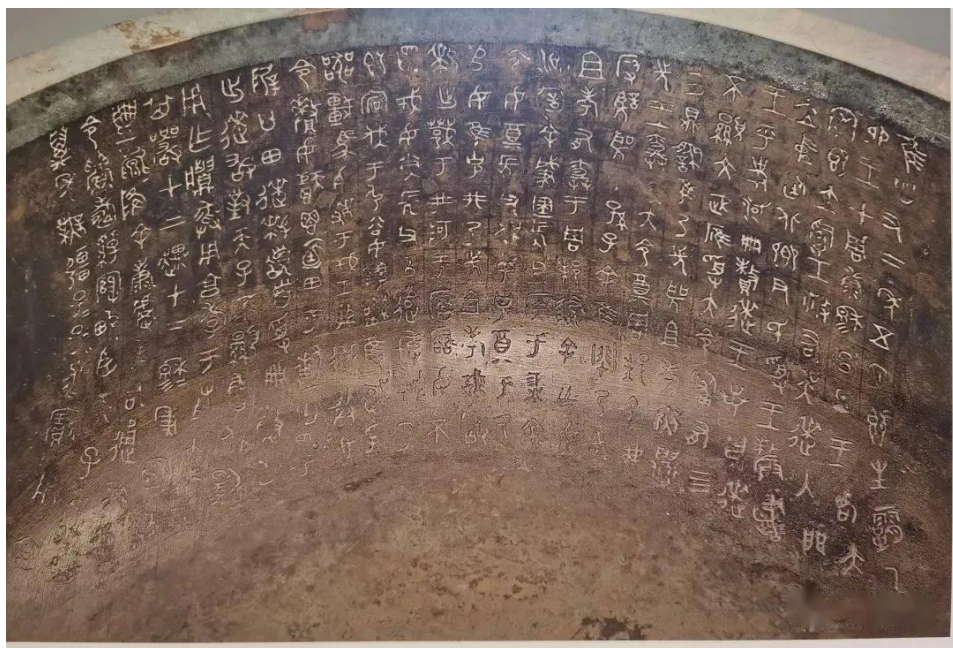


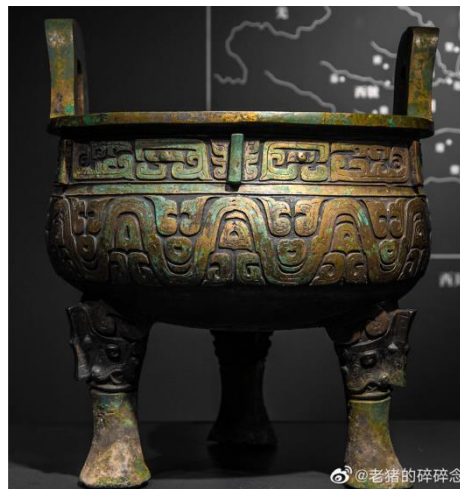
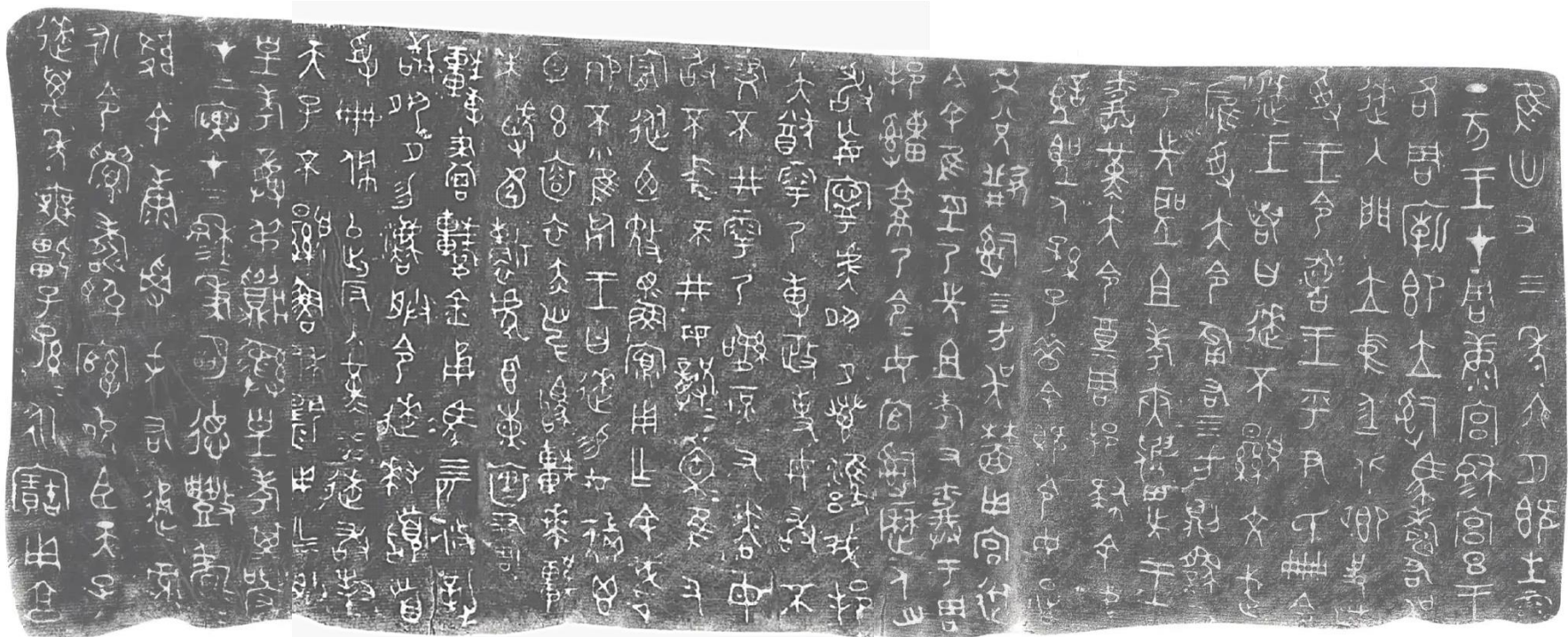
佳二月初吉丁亥、王才周成大室、且、王各廟、宰胡右乍册吳入門、立中廷北鄉、王乎史戊、册令吳、嗣旃累叔金、易鬻鬯一卣・玄袞衣・赤舄・金車・奉囀・朱號斲・虎官熏裏・奉較・畫罇・金甬・馬四匹・攸勒
 吳拜頤首、敢對飄王休、用乍青尹寶隣彝、吳其世子孫、永寶用、佳王二祀



方彝

四十二年速鼎





四十三年逯鼎